



▲道場5周年を記念して開催した大会にて

# 広島発 手づくり道場からスタート 5年で子どもが急増中

2019年に道場をスタートさせ、コロナ禍のまっただ中に自前の道場を建設。道場創設から5年が経過した青春英龍館道場(広島県東広島市)は、近年各種の大会にて上位入賞を多く記録している。会員数も同時に増加中で、熊本や福島からも通う少年剣士がいるのだという。稽古は厳しいと館長も自負する稽古でなぜ子どもが増えているのか、松井隆太館長に聞いた。

資料提供 青春英龍館道場



## 松井隆太 館長

1988年7月30日、広島県生まれ。広島市立沼田高校を卒業後、会社員を務めて(中電工)実業団大会等に出場しつつ道場で後進の指導にあたっていたが2019年に青春英龍館道場を立ち上げ、翌年には道場を建て、指導にあたる

剣道普及のカタチ

連載11

取材・文 安藤雄一郎

く、試合に出ても勝てないからおもしろくないはず。そう思って床板も剣道仕様になりました。今は日本のどこでも熱中症が問題になっていますがこの道場は冷暖房も完備しています。コロナ禍で公共施設が使えなかった時期にはウチの道場をほかの道場さんに提供していました。

創設当初、子どもは6名ほどでしたが、数年後に一気に15人増え、今は45名が所属しています。なかには熊本や福島から週末に通ってくる子どももいます。場所の広さも考えると50名が限界かなと思っていて、予約状態の方もいます。道場を建ててからは会社員は退職し、会社と道場を経営しています。

卒団した子のなかには九州の強豪校へ進学した子もいて、全国高校選抜やインターハイの決勝戦に出場した選手もいます。今後も、進学や就職で県外へ出たとしても、「いつでも帰ってこられる場所がある」ことに誇りを持って、頑張ってもらいたいです。

### 剣道以外を学べるから 自立していく姿を見られる

当初はとにかく人を増やそうと、楽しさばかりを追求していたのですが、稽古の数が少ないと試合に出ても負けて楽しさを感じられず、途中でやめてしまうケースもありました。なので今は、入会する段階でこんな話をしています。

「週に1回しか練習しない子は試合に出るだけになってしまっし、週に2回くらい頑張っている子は1回戦を突破できた

らしいぐらいです。週に3回以上稽古をすれば、私が責任を持って1回戦は必ず勝たせます。だから面をつけたら最低でも週に3回は頑張ってください」

保護者に対してハッキリと目安を示しました。月謝を払っているのに全然結果が出ない、となったときも、その理由を責任をもって説明します。ただ、今は先輩たちも強いのでみんなが強くなりたいたいという気持ちも強く、それに応える必要性も感じています。

強くさせようと思ってしまうのは絶対避けたい。その一環として、子どものしつけや道場の管理、移動で使うマイクロボスの運転をはじめ、道場に関わることは基本的に私がやります。剣道を知っている保護者はそれでも多少手伝ってくれますが役割分担はさせません。保護者に不公平な役割を与えたところから不満が生まれ、トラブルに進展するケースはかかなり多いと思います。

英龍館では、自前の道場を使って合宿もできます。夏休みにはここで宿題を見てあげたり、遠征に行く前には子どもたちと弁当を作ったり。もともと古民家だったので、キッチンやお風呂もありま。子どもたちが自立できる練習をする場があって、子どもたちの成長を実感しています。剣道だけを教える場所ではないことも、今、ほとんどの子どもたちが道場を離れない理由かもしれません。この春はろう剣士会の稽古会を実施し、懇親会も開いて親睦を深め、手話教室も



▲一戸建て住宅を道場に改造。少年剣士とともにイチから改修したという



先月号に掲載しました「全日本ろう剣士会九州支部の稽古会」記事中に誤りがありました。松井館長はじめ関係各位に深くお詫びするとともに、修正した記事も、剣道日本のホームページにアップしました



▲道場のなかで祝賀会も。台所もあるため食事会も開催できる



寮生を大募集。お気軽にご相談ください。

の春から中学生の寮生を募集する予定です。全国からの志ある子どもたちが来ることを願っています。

「明るく、楽しく、たくましく」が青春英龍館道場のキャッチフレーズです。A-1が発達したとしても、自分の手でものに触って、目で感じて、いろんなものに好奇心を持ってチャレンジする。どんな時代になっても自分の力で泥臭く生きていけるような人を育てることが理想です。